

2012年 IAEG 総会の議事録

2012年6月3日 バンフ カナダ

参加者

会長、前会長、事務局長、副会長(アフリカ、アジア、オーストララシア、ヨーロッパ2名、北アメリカ、南アメリカ)の10名

元会長1名

各国グループは、

セルビア、カナダ、スペイン、ブルガリア、USA、香港、ギリシャ、中国、オーストラリア、ロシア、ポルトガル 計11カ国

委員会 C-17,19,21,25,29,33,34

関係学会 IUGS、ISRM、ITA

1. 会長挨拶

2. 出席者および委任状数の確認

22名の各国メンバーを含む34名が出席または委任状により、また、役員11名と元会長2名が出席、35名/72名(全総会メンバー数)>25%で会議は成立。

3. 議題の確認

4. 2011年 モスクワでの総会議事録

5. 会長報告

10月に Marcel Amould 教授のセッションのためにパリを訪問、1月には中国を訪問し北京ほかで講義。中国 NG 会長に会い北京でミーティングを行った。マドリッドでは、Zaderigolova 教授に講義を行ってもらった。

8月のアルゼンチンで開催される南アメリカ会議に出席予定、また、9月には上海で行われる沿岸域の国際地質工学会議のため訪問する予定。

6. 事務局長報告

全55カ国のうち37カ国から会員状況の報告があった。現在、1966名の会誌購読会員と11名の賛助会員を合わせて、3513名の会員数となっている。報告がなかった以下の17カ国を加えると更に会員数は増えると思われる。

アルジェリア、インドネシア、イラン、マレーシア、ネパール、ベトナム

アルバニア、フランス、ハンガリー、デンマーク、エストニア、アイスランド、アイルランド、ノルウェー、ポーランド、メキシコ、ペルー

会員数が200人以上の国は、ドイツ、中国、NZ、オーストラリア、英国

新しい NG の状況を、エジプト、モンゴリア、ハイチ、再生メキシコ、それから香港

地域グループについて紹介した。

3年以上会費を納めていないのは、アルバニア、アイスランド、アイルランド、メキシコ、ネパール、パラグアイ、ポーランド、シンガポール、ベトナムとなっている。

事務局は、メールやニューズレター、HPによる情報伝達、2013年のIAEG会議の場所の選定(ブラジル、インドネシア、日本、韓国、マレーシア)、ベトナムへの活動支援や香港のIAEGへの新たな参加など、各NGや委員会との関係に努力している。

本総会のために、53の報告(副会長6、各国28、委員会16)を受けた。

ニューズレターは予定通り発行し、1週間で400人以上がwebで見ている。

Hans Cloos Medal 2012年は、投票の結果、ロシアのOSIPOV教授に決まった。

Richard Worters Prize 2012年は、6人の候補(カナダ、中国、ギリシャ、NZ、UK、USA)で、4人の審査員により6月4日に選ばれ、7日に表彰された。

Springerとの関係に努め、各国への会誌の配達とE-Tokenについて素早い対応をしてきた。Springerの協力により、バンフ会議におけるIAEGブースに200冊の会誌を置くことができた。2011年の会誌の配達状況については、何度も連絡して調査したが、14カ国から51名のみのお返しか得られなかった。

関係学会では、IUGSとは良好な関係を保った。また、ISRM会議とISSMGE会議に参加するとともに、第34回IGC大会への参加および何かIAEG活動を計画中である。

● 香港(SAR)地域グループの創設

議論に先立ち、Steve Parry教授がIAEG香港(SAR)地域グループの提案として、中国NGとの関係や運営などについて提案した。香港では、ロンドン地質学会とIMMMに属する学会は香港に由来するものではなく、応用地質技術者の発言の場がないという。中国NGが中国を代表するIAEG NGであり、香港グループは独立したメンバーではあるが、地域グループであり中国を代表しないことで合意し、香港の提案は承認された。

7. 会計報告

IAEGの収支状況は良好で、総資産は349K€以上、2011年の剰余金は4.7K€以上となった。2012年から2014年の予算と、副会長の旅費やwebサイト、50周年記念出版などを特別会計とすることが承認された。

● 学生会員の会費について議論があった。一部の人たちは、学生は1-3年間は無料としてIAEGの活動に興味を持つ学生達を引き付け、養成するべきとの考えである。しかし、会費は額だけの問題ではなく、IAEGのサービスを受け、会員であることの義務を負うということになると主張している。総会としては、最大で2年間無料とし、会誌購読なしの学生会費の新設について各国Gの意見を聞くことになった。

IAEGはフランスに登録されており、無税の非営利組織と考える。

8. 各地域の副会長報告

9. 学会誌

長年にわたって学会誌の面倒をみてきた Brian Hawkins 氏に代わる新しい編集責任者の任命は緊急だが難しい。候補者には高い技術と経験、英語力、熱意と十分な時間を持つことが必要だ。会長は 2 か月以内の候補者の擁立を要請した。

学会誌は、IAEG の窓口であり、内容の質と報文の量が重要。オンラインでの原稿提出など Springer との密接な協力が必要。マドリッドでの打合せで、Springer は毎年 200 冊の会誌を無料で、かつ、どこにでも届けることになっている。今年は、このパンフに届けられた。

10. 50 周年記念出版

この出版本は重要であり、50K€を費用上限として出版すべき。

全会員が支援すべきで、USA の Scott Burns 氏は 10K\$を支援すると言っている。出版物の購入予約調査や収支検討も重要だが、最大限の努力が必要との意見あり。

11. IAEG 委員会報告

TOC(委員会監視)の紹介と、その報告があった。

Fred Baynes, Silvina Marfil, Ann Williams, Runqiu Huang の各氏から報告

よりよい議論と発展のために、次は全委員長を集めるべきとの意見

中国海洋大学の Yonggang Jia 氏が、海洋の応用地質学の発展をテーマとする C-34 委員会の提案を行い承認された。

そのあと、委員会の委員長から数件の活動報告がなされた。

12. 2013 年の役員会と総会の日時と場所

ブラジルが辞退したため、中国の提案が受理された。

● 2012 年の会議

沿岸域の応用地質に関する国際会議(ISCEG-Shanghai2012)の進捗を報告、シンポジウムは 9 月 20-21 日に開催。Web サイトで 2 回目のアナウンス、Springer とは出版で合意。15 カ国から 70 のアブストラクトと 53 の論文を受理している。

第 10 回地質工学シンポジウムが ASAGAI とアルゼンチン NG により 8 月 15-17 で開催予定。

● 2014 年 IAEG 会議

会議は社会と地域のための応用地質学をテーマに、設定したセッションやトピックスをもとに、激変する世界における応用地質の躍動的な役割を理解することを目的としている。今回の会議はまた、IAEG 設立 50 周年本の出版と Marcel Arnould(IAEG 名誉会長)記念ともなっている。

会議ではセッションを選定しており、セッションのタイトルと簡単な説明を付けた提案を受け付けている。

会議の日程を確実に知らせるべき、web サイトによりもっと情報が得られるようにすべき、web サイトの改良やモニタリングシステムが早急に必要。詳しいスケジュール、

特に論文の募集案内や査読・受理などの適切な時期を設定すべき、といった議論があった。

● 次回の役員会と総会

C-29 委員会の委員長の Ruilin Hu 氏から提案があった。土と岩盤の構造と挙動に関するワークショップが、委員会と中国 NG により 2013 年の 9 月 25-28 日に北京で開催される。

副会長の Runqui Huang 氏に代わり Wu 氏から、四川地震の 5 周年国際シンポジウムが防災・地球環境保全研究所(SKLGPI)により成都で行われる、との案内を行った。

総会では、これら二つの会議を IAEG が後援することが承認された。

C-29 ワークショップを中国 NG と C-29 の共同開催で IAEG が後援する国際シンポジウムとし、日程を 9 月 24-25 日に変更することが提案された。

次回の会議は、この国際ワークショップの前の 2013 年 9 月 22-23 日に北京とすることで承認された。

以上